## 情報部会レポート

### 東日本大震災復興支援『がんばろう 東北!』
# 第10回 障がい者スポーツ指導者全国研修会

2014年11月22日・23日に東北ブロック・福島県会津若松市の会津大学で、「第10回 障がい者スポーツ指導者全国研修会」が開催されました。

シンポジウムや6つの分科会など「東北発！日常的な運動プログラム作り」を全体テーマに行われた研修会には、全国から171名の参加者が集まりました。

情報部会では、この全国研修会の模様をFacebookを活用して、リアルタイムで全国の障がい者スポーツ指導員・関係者のみなさんへ発信し、多くのアクセスをいただきました。この『No Limit』誌上でもあらためて全国研修会のレポートをお届けしたいと思います。

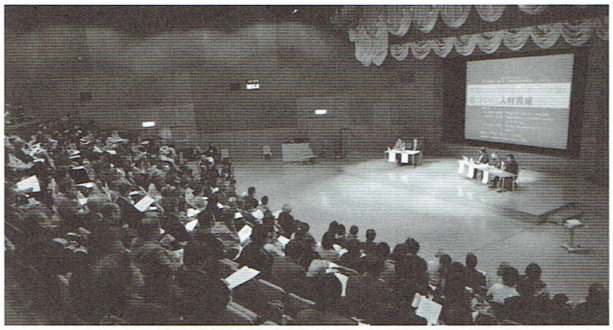
障がい者スポーツ指導者協議会　情報部会

## (1) シンポジウム

### 「地域における日常的なスポーツ活動の場づくりと人材育成」

総合司会：植田敏郎（研修部会副部会長）
アドバイザー：水原由明（公益財団法人日本障がい者スポーツ協会）
進行：矢吹知之（東北福祉大学）
シンポジスト：池田洋貞（仙台市立鶴谷特別支援学校）
増子恵美（福島県障がい者スポーツ協会）
三浦拓朗（岩手県障がい者スポーツ指導者協議会）

開講式に続いて行われたシンポジウムでは、地域において課題となっている障がい者スポーツ指導員の活動の場の確保とその対応について、東北各地の状況が報告されました。池田氏からは、知的障がいのある人が支援学校卒業後のスポーツの場を確保するための地域スポーツクラブの運営について、三浦氏からは、2016年の全国障害者スポーツ大会「希望郷いわて大会」へ向けた県内のスポーツ振興についてが報告されました。また増子氏から報告のあった、2011年の東日本大震災と福島第一原発事故でスポーツ活動に大きな制限を受けた福島県がどのようにして選手の練習や指導員の活動を継続してきたのかについては、参加者からも大きな関心が寄せられました。


会場の会津大学講堂は全国からの参加者で満員

左から増子氏、三浦氏、池田氏のシンポジスト

## 【第1分科会】

### 知的・発達障がい者のスポーツ～効果的な指導と支援の方法～

講師：太田澄人（長野県障がい者福祉センターサンアップル）
コーディネーター：小田智佳（研修部会）

太田澄人講師

グループで考えたプログラムを障がい当事者と一緒に楽しみました

スポーツ指導の現場では「知的障がいのある人」と「発達障がいのある人」は一緒に活動する場面が多くみられます。それぞれの障がいのある人たちがスポーツをする意義と効果、また指導上の留意点について学び、スポーツの楽しさが実感できるような、わかりやすい指導の方法について考えました。

## 【第2分科会】

### 高齢障がい者のスポーツ～効果的な指導方法と支援の方法～

講師：佐藤敬広（東北文化学園大学）
コーディネーター：植田敏郎（研修部会）永野典詞（研修部会）

みなさんが経験を活かして楽しいプログラムを作ってくれたと、佐藤敬広講師

プログラムの発表も盛り上がりました

高齢障がい者（特に脳血管障がい）の障がい特性からスポーツ、レクリエーションのあり方について学びました。グループワークでは、日常生活において高齢者障がい者が楽しみながら主体的に取り組むことができるスポーツ・レクリエーションプログラムを作成しました。

## 【第3分科会】

### 脳性まひ者のスポーツ・レクリエーションプログラムづくり

講師：河合俊次（大阪市更生療育センター、大阪市厚生療育センター厚生部理学療法士）
コーディネーター：松浦孝明（研修部会）、成岡洋介（研修部会）

河合俊次講師

卓球台とバレーボールを使ったプログラム

脳性まひの人がスポーツに参加するための創意・工夫の仕方や、その意義、効果について学びました。グループワークでは脳性まひの人たちのスポーツ・レクリエーションについて、指導上の工夫、留意点を考慮した実践的なプログラムづくりを行いました。

## 【第4分科会】

### プールプログラム（水を用いた運動）

講師：柳橋千恵（東京都障害者総合スポーツセンター）
コーディネーター：櫻井嗣久（研修部会）

柳橋千恵講師

プールでは現場で応用できる実技を体験しました

水中運動は「浮力」「抵抗」「水流」など、水の特性を生かしたプログラムづくりが必要です。個々の障がい特性や年齢、発達段階に合わせた基本的な理論や留意点を学びました。2日目はプールで実技を行い、受講者自身がプログラムを体験しました。

## 【第5分科会】

### 屋内で手軽にできる運動

講師：伊藤秀一（リハビリテーション体育リプラウド）
コーディネーター：棟智恵子（研修部会）

みなさんが楽しいプログラムを考えてくれましたと、伊藤秀一講師

冬は屋内活動が多い地元・東北ブロックから多くの方が受講

日常生活活動の制限や社会参加に制約が起こることは、障がいの有無や年齢に関わらずレクリエーションやスポーツに触れ合う機会が減ってしまうことにつながります。屋内の限られたスペースでもレクリエーションやスポーツを効果的に楽しめる運動プログラムについて考えました。

## 【第6分科会】

### 障がい児と健常児の交流プログラム

講師：安井友康（北海道教育大学）
コーディネーター：金山千広（研修部会）

安井友康講師

グループワークでは楽しいプログラムが考案されました

2007年に特別支援教育が施行されてから、障がいのある子どもと障がいのない子どもが一緒に活動する機会が増えています。障がいの有無に関係なく、子どもたちが交流できるような、スポーツ・レクリエーションプログラムの作成や指導方法を講義や実技を通して学びました。

## 第10回障がい者スポーツ指導者全国研修会に参加して

障がい者スポーツ指導者協議会　情報部会部会長　**吉田正人**

今回の全国研修会は東北ブロック障がい者スポーツ指導者協議会による開催でした。これで全国すべてのブロックでの全国研修会が開催されたことになります。これまでの全国研修会に関わってきた多くの障がい者スポーツ指導員の皆さんの努力によるものと思います。

初回開催より10年が経過し、障がい者スポーツに関わる障がい者スポーツ指導員の環境やとりまく社会情勢なども大きく変わってきています。情報部会では今回の初めての試みとして、全国研修会に関する情報発信をFacebookにより行いました。

今後も全国各地域で活動する障がい者指導員の方々などに向けて様々なかたちで情報発信・伝達を行い、障がい者スポーツの振興や普及に努めていきたいと思います。

情報部会　中部東海ブロック　**栗林三奈子**

情報部員として全国研修会に参加して、「私なら何が一番知りたいだろうか？」「どんな情報が欲しいだろうか？」と考えました。写真では伝わらないわかりにくいこともあります。動きのあるものは『それ』を、動画で情報として発信し、講義の資料や教室での様子などもあれば……と取り組んだのが今回のFacebookを活用した情報発信でした。各分科会の充実したグループワークに自分が参加できないのは残念ではありましたが、『スキルアップしたい』という、指導員の方々のナマの声を聞くことができました。

このような機会をいただき、自分自身得るものも多く感謝しております。ありがとうございました。

# NO Limit

【発行】公益財団法人 日本障がい者スポーツ協会
Vol.61

toto
FOR ALL SPORTS OF JAPAN
スポーツ振興くじ助成事業

## インチョン2014アジアパラ競技大会

東日本大震災復興支援

## 第14回全国障害者スポーツ大会